

喰らうは生きる
 食べるは愛する
 いっしょのご飯が
 いちばんうまい



沢田研二、主演。
 料理研究家・土井善晴が
 映画に挑む。

四季折々の食で綴る人生ドラマ。

土を喰らう十二月



沢田研二

松たか子

西田尚美 尾美としのり 瀧川鯉八
 檀ふみ 火野正平 奈良岡朋子

監督・脚本・中江裕司

原案・水上勉

『土を喰らう日々』わか精進十二月刊(新潮文庫刊)
 『土を喰らう日々』わか精進十二月刊(文化出版局刊)

料理・土井善晴 音楽・大友良英

製作・『土を喰らう十二月』製作委員会

配給・日活 制作・オフィス・シロウス

助成・文化庁文化芸術振興費補助金
 (映画創造活動支援事業)
 独立行政法人日本芸術文化振興会

©2022『土を喰らう十二月』製作委員会

tsuchiwokurau12.jp

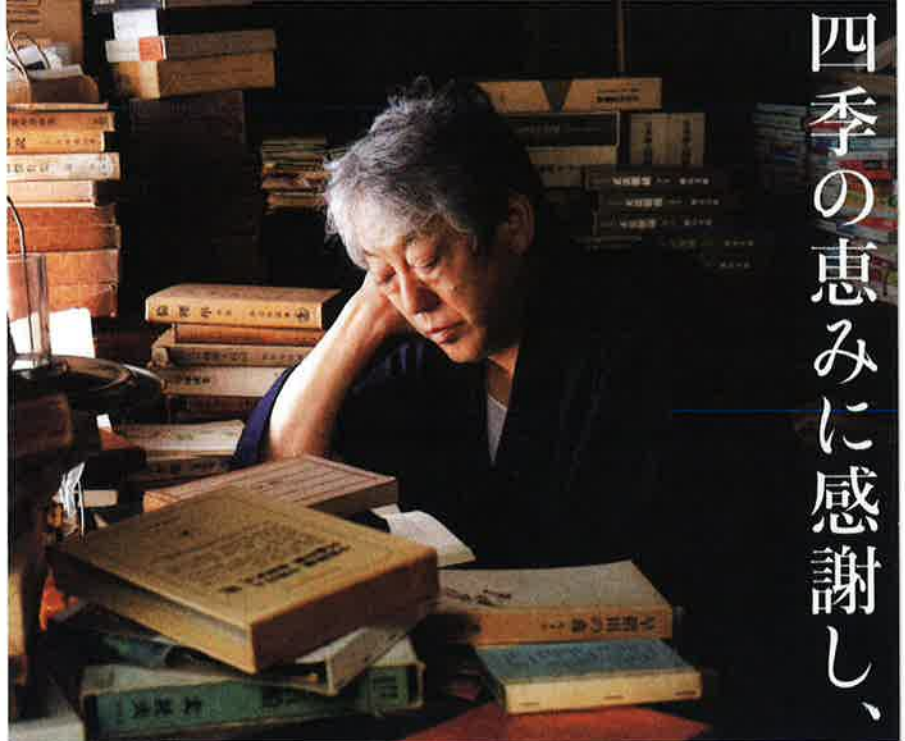




圧倒的な存在感で 沢田研二が体現する 豊かな生き方

長野の山荘で暮らす作家のツトム。山の実やきのこを採り、畑で育てた野菜を自ら料理し、季節の移ろいを感じながら原稿に向き合う日々を送っている。時折、編集者で恋人の真知子が、東京から訪ねてくる。食いしん坊の真知子と旬のものを料理して一緒に食べるのは、楽しく格別な時間。悠々自適に暮らすツトムだが、13年前に亡くした妻の遺骨を墓に納められずにいる…。

1978年に水上勉が記した料理エッセイから、中江裕司監督が物語を紡ぎだした本作は、人々がいつしか忘れてしまった土の匂いのする生活を思い起こさせ、人としての豊かな生き方を教えてくれる。主演の沢田研二は、物語を凌駕する圧倒的な存在感を見せる。映画を見終わったとき、観客はツトムと十二月を体験したことに気づくはずだ。



四季の恵みに感謝し、
十二月を生きる。



土井善晴が 料理を手掛けた 初めての映画

目も心も満たしてくれる旬の野菜で作る料理の数々。ほうれん草の胡麻和え、若竹煮、胡麻豆腐など、ツトムが寺で覚えた料理を具現化したのは、料理研究家の土井善晴。初の映画参加となった。撮影前に開墾し、実際にスタッフが畑で育て収穫した食材を使用。四季を撮るために日本映画では異例の一年六ヵ月にわたる撮影を敢行するなど、“土を喰らう”という本質に徹底的にこだわった。劇中の料理の多くは土井の指導の下、沢田自身が実際に作っている。



松たか子、火野正平、奈良岡朋子ほか、 脇を固める実力派

ヒロインの真知子には松たか子。料理をほおぼる姿などチャーミングな魅力を十二分に発揮。脇を固めたのは、実力派俳優の火野正平、檀ふみ、西田尚美、尾美としのり。また、演劇界の重鎮・奈良岡朋子が義母を演じ、落語家の瀧川鯉八が映画初出演。信州の美しい自然と共に全編に流れるジャズは「花東みたいな恋をした」などの大友良英が担当している。

土井喰らう
十二月

tsuchiwokurau12.jp

令和5年9月30日(土) ひたちなか市文化会館小ホール (開場各30分前・上映時間111分)

【開演時間】[1回目] 午前10:00~ [2回目] 午後2:00~

【前売券】1,100円(全席自由) 発売日:8月5日(土)~ 【当日券】一般:1,400円/高校生以下:800円

【前売券販売所】ひたちなか市文化会館、ザ・ヒロサワ・シティ会館、水戸京成百貨店、(有)茨城映画センター

【前売券電話予約】(有)茨城映画センター ☎090-2641-3156 (午前10:00~午後5:00 土・日・祝を除く)

【主催】(有)茨城映画センター

【共催】公益財団法人 ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

【問合せ】茨城映画センター (☎029-226-3156) ・ひたちなか市文化会館 (☎029-275-1122)

